



# 生活相談通信 きずな

～ Tie & Bond ～

## 9号通信 (平成23年 7月号)

本格的な夏を迎えようとしていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？この時期に最高気温39度を計測した事は異例の事とも思えます。特にこの度の東日本大震災の影響も加わり、夏場の電力消費に歯止めがかかる事は間違いなく、いかにこの「夏」を乗り越えるかを考える事に尽きると思われます。ですが、御利用者と話をしていると、「昔はクーラーなんか無いのよ」「夏は暑くて当たり前」「若い人は苦勞していないからね～」などの言葉を聴くと、裕福で潤いのある生活に変わった時代に生まれた自分に安堵する気持ちと、「そーだ！頑張らないと！」と心引き締まる気持ちとの葛藤に、自らを律する精神力の大切さを痛感致します。

どちらかという、物事に対してストイックに取り組む方で、良く言えば「情熱的」、悪く言えば「堅物」でしょうか…。何か物事を成し遂げるには、強い精神力が必要になり、時に、心が折れそうになる事もあります。ですが、自分の信念を貫く事で必ず良い結果が生まれる事と僕は思っています。

生活相談員：渡辺 文祥

## 目次：法の改正と成立

社会福祉法人 鶴寿会  
基本理念

『活力ある地域に根ざした高齢者福祉の創造』  
～共創の時代～

高齢者の方々が『いつでも、その方らしい豊かな人生を過ごせるよう』御家族に『心より安心して頂けるように』御利用者の身体面と精神面の親身なケアを通じ日々の安らぎと生きがいを支えるサービスの提供に努めていきます。

『きずな』を通してお伝えして参りました平成24年度の介護保険法改正案が先の国会で可決成立した事は報道等で周知の事と存じます。  
施行は4月となり、あと僅かな時間しか猶予がありません。その中で変化する主な項目と内容について、まず従事者である者は理解しなければサービスを受ける御利用者・御家族に明確な説明ができなくなってしまいます。

### 今回の注目は「地域包括ケアシステム」なるものです。

簡単に一言でいえば、住み慣れた地域の環境整備と強化です。特に施設はある意味、閉鎖的な一面も含み、施設内が生活基盤の中心である事になりがちです。  
施設の特性に憂慮するものの、本来の介護保険制度にある在宅での暮らしをより明確に強化していくスタイルにシフトするといった事です。  
施設に居ても、地域社会の資源を自由に活用できる事。自らが受けるサービスの量（介護・医療）を均一的に地域が持つ事で、地域毎の社会性・能力を持たす事を目的にしていると考えられます。

これまでの施設の在り方が徐々にシフトされる方向にあります。

## 編集後記

6月の梅雨。イメージするのは洗濯物が乾きにくく困る事と紫陽花の花。鎌倉の紫陽花は有名でしょうか。近隣では豊島園の紫陽花も有名ですね。私の住む立川近辺では高幡不動尊の紫陽花でしょうか。先般、何年ぶりかに立ち寄る機会がありましたので、紫陽花を見てきました。ふと気づくと、何か物足りない…紫陽花の葉の後にいるはずの蝸牛がいない…幼少時代には必ず居たのにと、少々寂しい気分にもなりました。気候変動の影響なのでしょうか。風物詩がいなくなる事に何か時代の移り変わりみたいな物を感じました。